

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

#### ①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

##### ●東京工業大学社会理工学研究科社会工学専攻

##### 「実践・理論融合の国際的社会起業家養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

社会工学専攻の学生を国内および海外の非営利組織にインターン派遣し、日本と海外の比較のレポートを提出させる。3年間で9名の学生が日本の非営利団体でボランティア活動するとともに、米国、英国、インドネシア、バングラデシュ等へ日本の活動と同種の非営利団体に派遣した。派遣学生は博士後期課程2名、前期課程7名である。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

海外派遣において、安全確保が最重要であり、専門のコーディネータが現地組織との調整・連絡を密に行い、派遣学生からは定期的近況報告を義務づけた。特に、途上国のNGOの場合、この問題が一層重要となることから、細心の注意を払いインドネシアのNGOへの派遣に際しては、コーディネータが現地に引率し安全を確認した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

博士後期課程の2名はこの経験を生かし、博士論文に反映すべく努力中である。19年度派遣の前期課程の2名の学生は、この経験を生かし、米国、オーストラリアに留学し、経験した領域(自然保護、ホームレス救済)のさらなる探求をしている。20・21年度派遣学生もそれぞれ経験を元に博士後期課程進学や将来の進路を検討している。極めて大きな刺激を受け、国際的視野を持った社会貢献人材に向かって行く上での効果的プログラムと言える。